

(6)「現代の課題 α」について

<仮 説>

課題研究の深化や英語による講座、討論を少人数で行い、学年内でのリーダー的存在を育成することで、学年全体で取り組んでいる本校の地域との協働による高等学校改革推進事業の取組がより発展し、学校全体として生徒のリーダーとしての資質の向上を図ることが出来る。

<目 的>

連携大学やUNWTOなどの関係機関と連携や、姉妹提携を交わしている交流校であるオーストラリアのバイロンベイ高校への海外フィールドワークを通して、課題研究に係る内容について深化させた講座や討論などで英語を使う機会も設けながら学ぶことにより、将来的にも活用できる英語によるコミュニケーション能力の向上と、生徒の企画力、創造力、対話力、表現力、情報活用能力を身に付けさせ、責任感や使命感を持った学年全体の中でのリーダーを育成する。

<内 容>

①コースの設定にあたって

「現代の課題 α」は「アドバンストコース」を選択した生徒が履修する。所定の課程を修了したと認められる者には、第2学年に増加単位1単位を付与する。このコースの概要については第2学年生徒を対象に4月当初に学年集会を通じて説明を行い、6月に募集を開始、募集人員は20名程度とし、希望者が定員を大きく上回る場合は作文試験と面接を課すこととした。平成27年度は希望者人数が23名ということで選考を実施していないが、平成28～31年度（令和元年度）は、それぞれ40名程度の応募がある中から選考を実施して、24名、21名、19名、20名のメンバーを選出した。

②平成30年度生（4期生）の活動（海外フィールドワーク）

1日目【3月6日（水）】出発

アドバンストコース4期生の生徒が、海外フィールドワークのため交流校のバイロンベイ高校に向けて予定通り、関西国際空港を出発した。期待と不安でいっぱいの表情の生徒たちであったが、翌日には、不安よりも期待の高まった表情が印象的であった。

2日目【3月7日（木）】現地到着

早朝にケアンズにて入国。その後、国内線乗り継いで、ゴールドコーストへ。バスに乗り換えてバイロンベイへ。途中、州境を越えて、時差の調整。無事BBHSに到着し、温かい歓迎を受け、その後、ホストの生徒達と対面。緊張が、一気にほぐれた場面であった。どの子も笑顔で、お互いにハグをする生徒達も笑顔がこぼれた。生徒達はホストファミリーとともに下校した。



3日目【3月8日（金）】

ホストファミリー宅からホストとともに登校。最初はラボルームに案内され、アイスブレイクでお互いを知るために、プロフィールを尋ね合うビンゴゲームを行った。その後、本校生徒がグループで発表を行った。アンケートを用意している班もあり、発表後はグループに分かれて討議を行った。英語、身振り手振りで必死に伝える姿が印象的であった。



その後、バスで 1901 年に建てられた ByronBay の名所の灯台へ移動。昼食後、記念写真を撮影した。オーストラリアの最東端の地でもあり、灯台内には、かつての捕鯨が盛んだっころの資料も展示されていた。灯台の岬の散策路を回って反対側のビーチへ。サーファーが楽しんでいるビーチの横を制服姿の高校生が荷物を持って移動する光景は少し滑稽だったが、自然を楽しむ AUSSIE のおおらかさを感じることができた。



4日目【3月9日（土）】

それぞれの生徒がホストファミリーと過ごす日程だが、昼食は Broken head というビーチにホストファミリーが一同に会して BBQ を行った。食後は日本と逆の季節で初秋のビーチを楽しんだ。夕方、町中には、週末のためか出店が数多く出ている、日本のお祭りのようであった。



5日目【3月10日（日）】

この日は、それぞれの生徒がそれぞれのホストファミリーと終日過ごした。周辺地での観光、浜辺での休日やバーベキューなど、様々な一日を過ごしたようである。

6日目【3月11日（月）】

この日は朝から BBHS の授業に参加しながら体験活動を行った。1 限目（80 分）クリスティーナ先生の日本語の授業、8 grade（中学 2 年生に相当）の授業に参加した。BBHS の生徒は 25 人、BBHS と本校生徒を 6 つずつの班に分け、彼らに日本語を教えるという活動をした。お互い 3 人程の人数で、話も盛り上がり、中には BBHS の生徒の名前を漢字で書いている班もあった。



一旦全体が集まり、それぞれの班でどのような事を学んだのかを振り返り、共有した。関西弁を教えたという班もあった。また、数の数え方、挨拶の仕草など、文化の違いも感じた。教室だけでなく、芝生のグラウンドに椅子を持ち出し、大きな樹の下で、のんびりと語り合うスタイルは日本にはなく、リラックスした雰囲気の中で楽しく学んでいた様子であった。



その後、バスに乗り、町の郊外の The Farm という有機栽培、オーガニックの考えに基づく農園の見学を行った。オーストラリア国内でも、この農園はその考え方や運営のユニークさが有名で多くの観光客が訪れていた。ナチュラルで持続可能（sustainable）な農園というのがコンセプトである。



農園をゆっくり案内してもらい、自然の力を改めて感じ、ゆったりとした気持ちで力をもらった。

6日目【3月12日（火）】

バイロンベイでの研修も最終日となり、1, 2 限は、ホストが受ける授業を体験するというものであった。図書館を利用しての 2 限は、生徒達が自分の設定した研究課題を調べるというものであったが、これも貸し出し用の PC が多数で、（自分の PC を持ってきている生徒も多数）日本に



比べてハード面の充実ぶりがうかがうことができた。また、1クラス約15～20名の少人数の授業で、生徒との対話を重視した授業が多い。

リセス（1.2時間目と3.4時間目の間の中休憩）の時間で、お別れパーティーを催していただいた。お菓子やフルーツを食べ、最後はクリスティーナ先生がつくってくださった動画で感動の涙となった。校門付近でも別れを惜しんで、ハグし合い、女子生徒だけでなく、男子生徒も目を潤ませていた。現地のガイドさんも、「短期間でこれほど感動的なホームステイが出来るなんて素晴らしい学校です」と感心していた。

ホストファミリーと別れ、ゴールドコースト近くのカランビン動物園へ。研修の後、コアラ抱っことカンガルーを見学した。



7日目【3月13日（水）】

最終日、早朝7時発のフライトでケアンズへ向かい、ケアンズから7時間半のフライトで関西国際空港へ。予定通りの時刻に関西国際空港へ到着し、ひさしぶりに日本の土を踏んだ。

今回の研修で得た広い視野と柔軟な考え方で、自分で考える力をさらに伸ばしてくれるものと期待する。

③平成31年度（令和元年度）生（5期生）の活動

4月、対象学年の2年生に向けて、4期生の生徒（3年生）がオーストラリアの海外フィールドワークの内容報告も含めて、アドバンストコースの講座紹介を実施し、5月から募集を開始した。42名の希望者があり、6月10日に作文試験、11日～12日に作文内容と英語の面接試験を実施した。結果、20名を合格とし、6月18日に選考結果を発表した。以後、講座内容については以下のとおりである。

令和元年度アドバンストコース5期生2学期活動予定表			
回数	活動日時	授業計画	課外
1	6月27日（木）	未来創造会議に向けてのプレ発表会参観	✕
2	8月27日（火）	畝高祭準備	研究チームの結成
3	9月5日（木）	畝高祭準備	
4	9月12日（木）	夢を語る会（アドバンストコース内交流会）	
5	9月19日（木）	アドバンストOB・OG交流会	
6	9月26日（木）	バイロンベイハイスクール訪問歓迎行事企画打ち合わせ	
7	10月24日（木）	★京都大学学びのコーディネーター事業「これからの観光と地域」	
8	10月31日（木）	野村恵子先生講演「音声言語演習」	
9	11月7日（木）	★世界遺産教室	
10	11月14日（木）	課題研究打ち合わせ	
11	11月21日（木）	課題研究（企画発表会）	
12	11月28日（木）	課題研究（発表会予備日・企画修正）	海外FWプレゼン準備
13	1月9日（木）	各種発表準備	
14	1月16日（木）	★JICA 国際理解講座「身近な日本語から始まる支援」	
15	1月23日（木）	「総合的な探究の時間」実践発表会に関わるリハーサル	
16	1月30日（木）	アドバンストOB 西本太郎さん講演「世界青年の船参加およびマレーシア留学活動報告」	
17	2月6日（木）	海外フィールドワーク渡航準備（業者打ち合わせ）	
18	2月13日（木）	海外フィールドワーク渡航準備（課題研究）	
	3月5日（木）	海外フィールドワーク (Byron Bay High School)	
	～12日（木）		

★は公開講座（アドバンストコース以外の生徒も参加可）

本年度は昨年度に引き続き、7月の「未来創造会議」に向けての3期生のプレ発表から本格的な活動を開始した。この表にはないが、「未来創造会議」では、運営スタッフのリーダーとして、特に招いた留学生の案内等の役割を果たした。その後は課題研究を軸に交流計画や、外部から講師を招いての講演、ディスカッションを実施した。前年度までと同様に、外部講師を招く講座を中心に公開講座としてアドバンストコース以外の生徒にも案内をして参加募集を募り、本年度はおもに1年生が参加をした。以下におもな講座の内容を記す。

[講演]

・京都大学学びコーディネーター事業「これからの観光と地域」

(京都大学大学院 経済学研究科 特定助教 舟津 昌平 氏)

平成31年度(令和元年度)京都大学高大連携学びコーディネーター事業「大学院生等による出前授業・オープン授業」により、京都大学大学院から経済学研究科特定助教の舟津昌平氏を派遣いただいた。講演のテーマは「これからの観光と地域」というもので、グローバル化する社会の中で、地域的特色を生かしながら世界市場で活躍する企業などを具体例として挙げ、グローバルという視点を生徒に示してくださいました。生徒の感想には「グローバルやグローバルという言葉について、今まで曖昧だったことが理解できた」や、「自分に無関係だと思っていたことを身近に感じる事ができて良かった」などの内容が多く見られた。(希望生徒1年生14名参加)



・「UNESCO 世界遺産教室」(久保 美智代 氏 [フリーアナウンサー])

ユネスコ・アジア文化センターから派遣いただいた久保美智代氏による講演。世界遺産の保護の問題や負の世界遺産の紹介などユネスコの活動についてお話しいただいた。SDGs(持続可能な開発目標)の視点など、生徒にとっては今後の課題研究に活かせる視点があったと、参加者の感想に多く書かれていた。(希望生徒1年生1名参加)



・国際理解講座「身近な日本語から始まる支援」(元 JICA 青年海外協力隊 福西 真実 氏)

県の国際課の方の協力も得て、JICA 青年海外協力隊として2年間インドへ派遣され、現地で日本語教師の経験をされた福西真実さんに、当時の活動内容と、自分たちでもできる支援について講演していただきました。異文化交流のワークショップも行っており、生徒はより体感的に異文化理解について関心を持つことができた様子であった。身近なことや、自分に得意なことでもできる支援を考えるきっかけになったという感想が多く見られた。(希望生徒1年生5名参加)



・「世界青年の船参加およびマレーシア留学活動報告」※非公開講座

(アドバンストコース1期生 関西学院大学 社会学部 3年生 西本太郎さん)

本校 SGH 事業の1期生であり、アドバンストコース1期生でもある西本太郎さんに来ていただき、講演を行ってもらった。内容は、内閣府主催の世界青年の船という事業の参加報告と、マレーシア留学活動報告が中心であった。生徒たちは、身近な先輩の活動に熱心に耳を傾け、質問も活発にしていた。近い将来の選択肢を1つ見つけることができ、先輩のやってきた活動に自分も関わりたいという感想が多く見られた。



[課題研究]

アドバンストコースの生徒が7つのグループに分かれ、現在それぞれの研究を進めている。テーマは様々であるが、今年度は積極的に地域と関わるように活動している。例えば、「子ども食堂を通じた地域コミュニティの形成」を研究しているグループは、実際に地域の子ども食堂へボランティアとして参加し、また、「一生使える学習机」の設計・作成を目指して活動しているグループは、県内の林業関係者と連携しながら活動を行っている。今後は3月に実施するオーストラリアへの海外フィールドワークの際に、各自の現時点での研究内容を交流校のバイロンベイ高校の授業でプレゼン発表等をおこなって意見交換を実施するとともに、現地でのフィールドワークを通して各自の研究を深化させる。その後は7月に実施される「未来創造会議」で、これまでの取り組みを発表し、アドバンストコースとしての全体活動は一旦の区切りを迎える。今取り組んでいる活動をこの先の進路でも継続してみたいという生徒もいるので、今後、生徒の研究がより継続的なものになるように取り組ませる。また、後輩へ研究を引き継ぐことで継続を可能にすることも検討している。

<成果と課題>

[成果]

- ・本校のSGH事業が終了し、地域との協働による高等学校改革推進事業（グローバル型）に移行したため、地域連携の柱としてのアドバンストコース活動を目指した。結果として、部分的にはあるが、自発的に地域と密接なつながりを持って活動を継続している生徒が現れ、今後の事業における地域連携のモデルケースへと発展することを期待している。
- ・教員間の連携を高め、各研究グループに1人程度の担当者をつけることで、生徒への指導を丁寧に行うことができるようになった。また、アドバンストコースに関わる教員にとっては、今後の事業の中心的な役割や、ファシリテーターとしての役割を果たすための研修の場にもなり、生徒と教員が双方学び合いながら活動できた。
- ・アドバンストコースのOBやOGとの交流を新たに始め、これまでの取り組みとの縦の連携を図った。生徒は身近な先輩の体験談を聞くことで、活動のイメージを描くことができていた。同時に、卒業生も生徒から刺激を受けて、自分もまた頑張りたいという声も聞くことができ、今後も縦のつながりは継続していきたいと感じた。

[課題]

- ・次年度より、第2学年の生徒は総合的な学習の時間を利用して全員が課題研究を行う。そのため、これまでアドバンストコースは課題研究に大きな比重をおいて活動してきたが、他の生徒の活動との差別化が必要となる。地域との協働による高等学校改革推進事業の趣旨もふまえて、アドバンストコースの活動目的や内容については再検討する必要がある。
- ・昨年度の課題に挙げられていた、英語力の強化という点については、SGH事業が終了したこともあり、あまり積極的に新しい取り組みをしなかった。今後の事業やアドバンストコースの趣旨や目的を再検討し、ネイティブとの英会話や議論の機会を設けるべきかどうかを考えなければならない。
- ・地域連携は、まだまだ教員の個人的なつながりを利用したものや、生徒の自発的なものに頼っている面が大きい。今年度の生徒の取り組みを1つのきっかけとして、より学校全体として地域連携を強化していく必要がある。また、コンソーシアムとの連携も不十分であると考えられるので、次年度以降、積極的な地域連携を図らなければならない。
- ・アドバンストコースの生徒の課題研究のまとめとして、発表して終了ではなく、レポートや小論文といった形で成果物を残すことが、5期生が新たに開拓すべき活動であるが、時間的制約もあり、指導できるスタッフも限られていることから、実現できるかどうかは課題である。